

大石田町議会「行政調査」報告書

今野 雅信

期 間 令和5年6月27日(火)から令和5年6月29日(木)まで計3日間

出張先 北海道白老郡白老町議会、夕張郡栗山町議会、夕張郡長沼町議会

用 件 白老町議会 通年議会制、政治倫理に関する取り組みについて

栗山町議会 反問権の具体的な運用方法、実績、問題点等

『議員の学校』の取り組みについて

長沼町議会 ワークーションを活用した移住政策、関係人口の拡大

等の取り組みについて

報告大要

・白老町議会

通年議会制について

白老町議会では、開かれた議会・信頼される議会を目指して令和9年から議会の改革に取り組んでいる。平成20年から『通年議会』を導入。議会の活動能力がない「閉会中の期間」が無いことから、①議長に事実上の招集権が帰属する②臨時会を開く必要がなくなる③議案の受理が随時、可能となる④委員会の閉会中の継続審査の手続きが不要になる⑤全てが公式の会議となり、公務災害が保障される・・・等々、通年議会のメリットがある。

通年議会制については導入する議会も増えてきているようだ。閉会中の期間がないことから、年間を通しての組織活動の活発化や、議員としての資質向上等、期待できるが、会議日数や委員会が増加の傾向にあるようだ。議員報酬、なり手不足、若者や女性の議会の参画を考えると大石田町議会が通年議会制を導入していけるのか、もっと検討していかなければならないと考える。議会の活性化のためには、議会が自らの改革をしていくことが大切だ。議会活性化委員会を中心に開かれた議会・信頼される議会を目指して改革に臨んでいかなければと感じた。

・栗山町議会

反問権について

栗山町議会では、議会が議論の場である為には、双方が質問できて当たり前との考えから、執行側にも反問権を与えている。議員も質問事項を十分精査した上で政策論争に臨むことにより、議員の資質向上にもつながる。

平成 19 年から取り入れ今まで 15 件の反問権があった。反問権の大半は論点整理のための反問で、議長の判断で反問権の不許可が 1 件あった。感情的な反問にならないよう注意が必用だとの説明を受けた。

大石田町では令和 5 年 3 月定例会で反問権を執行部側に与えることを決定し

た。色々な先進地の事例を参考にし、町民に分かり易い議会、内容の濃い議会にしていくためにも政策論争が活発になり、議員も質問精査、調査をしっかりと行い資質向上に繋げていかなければと感じる。

議員のなり手対策事業『議員の学校』について

議員のなり手不足（過去2年間無投票であったが、4月の改選では選挙となった）から議会が主催し課題解決に向けた一助として取り組んでいる。6時間（6日間）のカリキュラムを通して、議会の役割から模擬議会までを通し、議員に関心を持つ町民を発掘・育成していく。受講者19名のうち改選で3名が立候補し3名当選している。

大石田町でも模擬議会を開催したが、栗山町ではもっと細分化し議員の仕事や情熱を伝えているようだった。改選期には参加者が立候補し当選していると伺い、『議員の学校』がなり手不足の課題解決に繋がっていると感じた。

『議員の学校』を参考にして、大石田町模擬議会が今後の課題解決になるよう続けていきたい。

・長沼町議会

ワーケーションを活用した移住政策について

長沼町では中心都市の札幌市や新千歳空港、北広島市のボールパークなどへのアクセスのいい立地と日本トップクラスの農産物を生かしワーケーションに取り組んでいる。企業の研修や業務コミュニケーションを「チームビルディング」と称し、ワーケーション×チームビルディングを通して企業誘致にまで結びつく展開を考えている。

大石田町においても関係人口・交流人口をどう取り込んでいくかが課題だ。ワーケーションがコロナ禍のなか注目されてきたが、日常が通常に戻りつつあるなか続けていくには、地域の強みや魅力を武器にしていかなければならないと感じる。ワーケーションを誘致する場所の確保も課題だ。廃校や空き家を活用していく必要があると考える。長沼町でも今後の展開が課題だと伺った。今後お互いに情報交換をし、良いものは取り入れ地方活性化の参考になっていけばと考える。

今回の行政調査でご対応頂いた議会議員の皆さん、職員の皆さんに感謝です。皆さんの町を良くしたい、議会を良くしたい、町民の為の議会を追求する熱い思いに触れ、私たち大石田町議会議員も、まだまだやらなければならないことが山積みだと実感した。今回学んだことを今後の議会活動に活かし、開かれた議会・信頼される議会に努めていきたい。